

TV放送のオタク文化への影響

佐々木隆

プロローグ

オタク文化の原点をどこに、何に置くかは難しいところであるが、今回はインターネット登場以前のメディアを中心に取り上げたい。中心となるのはTVということになる。前島賢『セカイ系とは何か』(2010)によれば、「オタク文化」の定義とは次の通りである。

オタク文化（アニメやマンガ、ゲーム、それからライトノベル、あるいは秋葉原やインターネットなどに代表される、オタクと呼ばれる人々を中心として消費されるコンテンツを、本書ではこのように総称する）（前島 3）

前島の定義はコンテンツの表現に代表されるように、PC、インターネットなどのデジタル社会を強く意識した内容になっている。ここではメディアと世代という考えを念頭に入れているため、デジタル社会の前段階として、メディア社会の到来を呼び込んだTV放送時代を取り上げる。また、インターネットの影響が大きいいため、インターネット登場以後は特に「オタク」と表記しているが、一連のオタク論の流れからここでも「オタク」と表記する。（佐々木 31）

1 オタク文化と世代

日本では1953年にTV放送が開始され、テレビ文化もすでに60年以上の歴史を持ち、1983年に「おたく」という言葉がマスコミに登場、ファミコンの誕生、東京デズニーランド開園、マイケル・ジャクソンの『Thriller』のPV（プロモーション・ビデオ）の登場など、オタク文化にとって重要なファクターが1983年に集中して登

場したことから、1983年がオタク元年として捉えてもよいかもしれない。このオタク元年からすでに30年以上が経過した。また、1993年に旧・郵政省がインターネットの商用利用を許可し、すでに20年以上が経過している。

60年、30年、20年という時間の流れは文化を形成していくには十分な時間ではないだろうか。2015年を基点にすれば、1953年生まれの人には62歳、1983年生まれの人には32歳、1993年生まれの人には22歳ということになる。子どもが成長し、結婚し、家庭を持ち、家族を形成するにも十分な時間と言える。

オタク文化にとって「テレビ、ファミコン、インターネット」は重要な要素であるが、中でもインターネットの登場は社会全体に対する影響があまりにも大きいと言わざるを得ない。TV放送、インターネットについてはオタク文化は言うに及ばず、ポップカルチャー、さらには「文化」という大きな視点で見ても、最も重要なファクターである。なかでも1953年のTV放送が開始され、テレビアニメ『鉄腕アトム』(1963)が放映されたことは日本のポップカルチャーの象徴的な出来事と言ってもよいだろう。ここから日本のアニメは本格的にスタートすることになる。このアニメが原子力を扱っていること、ロボットを扱っていることの意味は大きい。

2 TV放送の定着

1953年のTV放送開始と共に育った世代をオタク第1世代と呼びたい。これはラジオと異なり情報は聴覚だけでなく、視覚的なものが伴うことが日常化して来たからだ。まさにメディア時代の到来と言ってもよいだろう。別の言い方をすれば第1次デジタルネイティブ世代と言ってもよいのかもしれない。しかし、TV放送が開始されたからといって全家庭にテレビがあったわけではない。「NHK受信契約数の推移」によれば、1953年の地上波テレビ受信契約数は

1,485 件である。当時はまだラジオ受信料の時代であり、同年のラジオ受信契約数は 10,539,593 件である。1953 年から 1964 年までの契約数は以下の通りである。

年	ラジオ契約数	地上波テレビ契約数	備考
1953	10,539,593	1,486	TV 放送開始
1954	11,709,173	16,779	
1955	12,505,370	52,882	
1956	13,253,608	165,666	
1957	13,907,137	419,364	
1958	14,590,807	908,710	東京オリンピック開催地に決定
1959	14,605,745	1,982,379	明仁皇太子ご成婚
1960	13,413,077	4,148,683	
1961	11,802,387	6,860,472	
1962	9,451,790	10,222,116	
1963	5,104,081	13,378,973	日本初衛星放送
1964	3,702,356	15,662,921	東京オリンピック

メディアの中心がラジオからテレビに代わっていく様子が契約数からも伺える。現天皇陛下の皇太子時代のご成婚の年には 100 万件以上の契約があり、テレビの普及を加速化させたと言われている。ラジオでご成婚の様子を聴くよりは映像としてみたいと言う気持ちはかなり強かったのである。その後は東京オリンピックまで契約数は増加し、1962 年にはラジオの契約数を抜き、メディアとしてテレビが重視されていくことになった。このような背景を考えると、オタク文化がメディアと密接に関連していると考えれば、1960 年前後に誕生した世代がオタク第 1 世代と言っても過言ではないだろう。テレビの普及は同時にテレビアニメの普及につながることになる。さら

に 1963 年 11 月 22 日にケネディ大統領の暗殺事件も日本の TV 放送にとってはショッキングな出来事であった。日米共同実験放送（衛星中継）が NHK とテレビ朝日（当時は東京教育テレビ）で 11 月 23 日に行なうことになっていたが、その前日にケネディ大統領暗殺事件が起き、記念すべき衛星中継でこの報道の特番が放送されることになったからだ。

ジョン・F・ケネディは 1961 年、第 35 代アメリカ合衆国大統領に就任しました。キューバ危機やベルリンの壁、米ソ宇宙開発競争など激動の時代に直面した「アメリカの希望の星」と言われる大統領でした。そのケネディ大統領が暗殺されたのは、1963 年 11 月 22 日午後 12 時 30 分。翌年に大統領選を控え、テキサス州ダラスでの遊説に向かう途中のパレードでの悲劇でした。ケネディ大統領とファーストレディのジャクリーン、テキサス州知事ジョン・コナリーと妻のネリー夫人の 4 人を乗せたオープンカーはダラスの空港からダウンタウンに向かっていました。その途中、3 発の銃弾がオープンカーを襲い、2 発がケネディ大統領に命中。頭部に致命的な負傷を負ったケネディはパークランド・メモリアル病院で息を引き取りました。ダラス到着後わずか 1 時間 20 分の出来事でした。

ケネディ大統領暗殺のニュースは、すぐに世界に衛星生中継されることになりました。（「テレビで生中継された重大事件簿『ケネディ大統領暗殺事件』」）

1964 年の東京オリンピックの開催はまさに日本のメディア文化にとって多大なる影響を与えたことなる。メディアの中心が映像を伴う TV 放送を中心とするようになれば、そこで放映されていた TV

アニメの与えた影響もまた図り知れない影響を与えたことになろう。

3 オタク 5 世代

拙著『オタク文化論』(2012)で「第2章 オタクの変遷」でも取り上げたが、中森明夫によればオタクは1970年代の初頭を起源としている。当然その人の年齢等をさかのぼり、1953年のTV放送開始、1963年の『鉄腕アトム』放映開始を考慮すれば、石森秀三「オタクが日本の観光を変える！」(2009)のようにオタクを5世代に分けてみれば、1960年前後がオタク第1世代として考えてみたい。もちろん安易な世代論は危険であるが、ここではオタクの変遷を時代の流れを背景にして理解するために取り上げたい。(石森 9-10)

- 第1世代 1960年前後生 新人類、しらけ世代
ウルトラマン、仮面ライダー、マジンガーZ、怪獣ブーム、変身ブーム、特撮
- 第2世代 1970年前後生 80年代のテレビゲーム、パソコン趣味の担い手
宇宙戦艦ヤマト、機動戦士ガンダム
- 第3世代 1980年前後生 メインカルチャーとサブカルチャーの差が薄れた世代
美少女戦士セーラームーン、新世紀エヴァンゲリオン
- 第4世代 1990年前後生 インターネット世代
- 第5世代 2000年前後生 両親がオタク文化に慣れ親しんだ世代

オタクを急速に進化させ、コアなオタクからライトなオタクを生み出したのは、インターネット、パソコン、デジカメ、ゲームといっ

たデジタルコンテンツの普及と言ってよいだろう。こうした状況について和田剛明「ライト化したオタク市場とその特徴」(2007)では次のように述べている。

DVDの普及やパソコンの低価格化が進み、ネットによる作品情報が入手できるようになるといった変化が進み、参加の障壁が低くなることによって、若い世代を中心とした『ライト』なオタク層の参加が起こる。この若い世代が成長することにより、オタク層が数としても年齢としても幅が広がり存在感を持つようになり、徐々に社会的に認知されるようになる。(和田 70)

オタクのライト化は腐女子、萌え系、コスプレなどへとつながっていることは言うまでもないことだ。

この『オタクのライト化』の中で、オタクという語自体も汎用化、マイルド化している。現在、オタクという言葉は「マニア」「ファン」「コレクター」などの語を包括した概念、「〇〇好き」程度の軽い意味合いで使用されており、あらゆる消費者の趣味・嗜好・レジャーは「〇〇オタク」と名づけることさえできる。(和田 70-71)

このライト化されたオタクが現在では産業においても大きな影響を与えることになるのだ。

4 オタク第1世代 1960年前後生

オタク第1世代は2015年段階では50代。TV映画『月光仮面』(1958)、TVアニメ『鉄腕アトム』(1963)、『マッハGOGOGO』(1967)が公開されたが、この世代の大きな特徴は、TVと共に成長し、少

年少女時代の 1970 年に大阪・万博により未来社会にあこがれを抱いた世代。今ではデジタルコンテンツの普及に右往左往しながら、社会で活躍している世代ではないだろうか。成長期においては PC やインターネットとは無縁であったが、30 代ではインターネットの影響を強く受け、独学の末でこうしたツールの活用をしている世代でもある。アナログ時代からデジタル社会の狭間の中でなんとかと対応している世代ではないだろうか。少年少女の頃にはやったものは現在の様々なブームの原点となっているものが沢山ある。以下のカッコ内はそのシリーズの最初ものが TV で放映された西暦。『ウルトラマン』(1966)、『仮面ライダー』(1971)、『マジンガーZ』(1972)、怪獣ブーム、変身ブーム、特撮がこの時代を代表するものだ。

『ウルトラマン』、『仮面ライダー』シリーズは現在まで続いている長寿シリーズである。怪獣シリーズ、変身ブーム、特撮は『ウルトラマン』を境にしてTV等で流行ったものだ。変身ブームは仮面ライダーではすっかり定着し、その後のヒーローもの、アニメでは馴染みの手法となっている。

『マジンガーZ』はロボットアニメで、その後さらにロボットアニメは急速に発展している。この世代のブームはオタクの原点とも言ってよいだろう。ちなみに日本漫画家協会設立(1964)、日本で初めての漫画博物館の埼玉県大宮市立漫画会館開館(1966)もこの1960年代であった。

TV 番組では『8時だヨ！全員集合』(1969-1985)はオタク第1世代だけでなく第2世代にも大きな影響を与えた高視聴率のバラエティ番組である。『スター誕生』(1971-1983)はアイドル文化との関連を考えれば重要な番組である。

エピローグ

インターネットが登場する前は情報源が限られていたが、その中

でもメディアとしてのテレビの果たす役割は大きい。インターネットやデジカメを始め、デジタルツールの誕生と共にオタクがライト化したことと同様に、TV 放送開始によりテレビが生活の一部となったことは、オタクを生み出す基盤を築いたことになる。TV 放送は映像文化到来の役割を果たした。1983 年にマスコミに登場した「おたく」という言葉は、TV 放送と共に成長したオタク第 1 世代が TV 放送の強い影響を受けた姿とも言える。

引証資料

石森秀三「オタクが日本の観光を変える！」(『まほろば』特集：

オタクツーリズム、第 60 号、旅の文化研究所、2009 年 7 月)

佐々木隆『オタク文化論』イーコン、2012 年 1 月

前島賢『セカイ系とは何か』ソフトバンククリエイティブ、2010 年 2 月

和田剛明「ライト化したオタク市場とその特徴」(『2008 オタク産業白書』メディアクリエイティブ、2007 年 12 月)

「NHK 受信契約数の推移」

(<http://www.geocities.jp/yamamrhr/NHK-1pdf>)(2015 年 4 月 28 日アクセス)

「テレビで生中継された重大事件簿『ケネディ大統領暗殺事件』」

(http://www.homemate-research-tv-station.com/useful/12386_facil_089/) (2015 年 5 月 11 日アクセス)

*本稿はインターネット講座「ポップカルチャーとオタク文化」でネット公開している「第 4 回 オタク文化と世代」(<http://www.econfn.com/otaku/otakubunkatosedai.pdf>) を大幅に修正し、活字化したものである。